

児童発達支援事業所における自己評価結果(公表)

別添資料5

公表:平成 31年 3月 8日

事業所名 放課後等デイサービス はあとくみ

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
環境・体制整備	1	利用定員が指導訓練室等スペースとの関係で適切である	10	3	指導訓練スペースに死角になる所がない。	事務室に児童が気軽に入れる雰囲気改善していく。
	2	職員の配置数は適切である	13	1	多い	少し職員数を減らし児童同志で活動出来る様に改善していく。
	3	生活空間は、本人にわかりやすく構造化された環境になっている。また、障がいの特性に応じ、事業所の設備等は、バリアフリー化や情報伝達等への配慮が適切になされている	10	3	事務側と別にお客様が来た時のスペースがあり。(パニックルーム等多目的に使用する。)	パニックルームがない。多目的に使用するスペースがあるが、職員への説明不足による認識のズレを改善していく。
	4	生活空間は、清潔で、心地よく過ごせる環境になっている。また、子ども達の活動に合わせた空間となっている	9	4	玩具は時々拭いる。皆で同じ時間に勉強に取り組めるようにしている。	少しでも時間が空いている職員が積極的に除菌を心がけていく様に改善する。年齢や活動に配慮した環境作りは今後の課題である。
業務改善	5	業務改善を進めるためのPDCAサイクル(目標設定と振り返り)に、広く職員が参画している	4	9		ミーティングを定期的に行って、PDCAサイクルに、職員が参画出来る様に改善していく。
	6	保護者等向け評価表により、保護者等に対して事業所の評価を実施するとともに、保護者等の意向等を把握し、業務改善につなげている	5	8		前は一部の職員にしか周知していなかったが、前回は保護者の方に評価表を配布している。認識のズレを改善
	7	事業所向け自己評価表及び保護者向け評価表の結果を踏まえ、事業所として自己評価を行うとともに、その結果による支援の質の評価及び改善の内容を、事業所の会報やホームページ等で公開している	1	9		保護者にはお知らせ(評価表の結果)を配布し職員にも書面にて共有。今後として会報等の作成を目標とする。
	8	第三者による外部評価を行い、評価結果を業務改善につなげている	1	10		第三者による外部評価はしていない。余力が出来れば改善していく。
	9	職員の資質の向上を行うために、研修の機会を確保している	3	10		職員用研修を定期的に行う。研修の機会を増やせるよう改善していく。
適切な支援の提供	10	アセスメントを適切に行い、子どもと保護者のニーズや課題を客観的に分析した上で、児童発達支援計画を作成している	9	2		アセスメントについては、児童発達管理責任者の役割で作成している事を職員にも周知し認識のズレを改善していく。
	11	子どもの適応行動の状況を図るために、標準化されたアセスメントツールを使用している	6	7	契約時には使用している。	児童の成長と共に内容を改善していく。
	12	児童発達支援計画には、児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」の「発達支援(本人支援及び移行支援)」、「家族支援」、「地域支援」で示す支援内容から子どもの支援に必要な項目が適切に選択され、その上で、具体的な支援内容が設定されている	6	6		形式を変更するのに時間が掛かっているが改善していく。周知し認識のズレを改善していく。
	13	児童発達支援計画に沿った支援が行われている	7	6		児童発達支援計画を直接見ていない為、職員に周知し認識のズレを改善していく。
	14	活動プログラムの立案をチームで行っている	5	7	平日と休日とでプログラムを変えている。	周知し認識のズレを改善していく。
	15	活動プログラムが固定化しないよう工夫している	4	8	お金の認識を持つ為におやつを駄菓子屋さんまで歩いて買いに行く。	職員の提案を積極的に取り入れていく為のミーティングの時間を作るよう改善していく。
	16	子どもの状況に応じて、個別活動と集団活動を適宜組み合わせ児童発達支援計画を作成している	9	4	個別活動が多い	集団活動があまりできていないので、まずは2~3名ずつのグループ活動を目指して改善していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
	17	支援開始前には職員間で必ず打合せをし、その日行われる支援の内容や役割分担について確認している	8	6	職員用連絡ノートに注意点を記入されている	全員が打ち合わせできているわけではない点や勤務時間がずれている為、申し送りが十分ではない点を改善していく。
	18	支援終了後には、職員間で必ず打合せをし、その日行われた支援の振り返りを行い、気付いた点等を共有している	8	4	気付いた点等を業務日誌に記入	支援終了後の打ち合わせは、一部の職員のみになっている点を改善していく。
	19	日々の支援に関して記録をとることを徹底し、支援の検証・改善につなげている	13	0		一部の職員のみで改善が終わっている場合もあるので、全体で周知出来るよう改善していく。
	20	定期的にモニタリングを行い、児童発達支援計画の見直しの必要性を判断している	8	4		半年毎に見直している。一部の職員との認識のズレを改善していく。
関係機関や保護者との連携	21	障がい児相談支援事業所のサービス担当者会議にその子どもの状況に精通した最もふさわしい者が参画している	6	3		誰が出席するのか、共通理解出来る様に定期的なミーティングでズレを改善していく。
	22	母子保健や子ども・子育て支援等の関係者や関係機関と連携した支援を行っている	2	6		保育所や幼稚園に通っているので連携する必要があるら行っていく。
	23	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 地域の保健、医療、障がい福祉、保育、教育等の関係機関と連携した支援を行っている	1	6		医療的ケアが必要な児童はないが、想定しておく。
	24	(医療的ケアが必要な子どもや重症心身障がいのある子ども等を支援している場合) 子どもの主治医や協力医療機関等と連絡体制を整えている	1	6		医療的ケアが必要な児童はないが、想定しておく。
	25	移行支援として、保育所や認定こども園、幼稚園、特別支援学校(幼稚部)等との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	5	5	お迎え時にお聞きしている。	
	26	移行支援として、小学校や特別支援学校(小学部)との間で、支援内容等の情報共有と相互理解を図っている	6	5	お迎え時にお聞きしている。	
	27	他の児童発達支援センターや児童発達支援事業所、発達障がい者支援センター等の専門機関と連携し、助言や研修を受けている	0	9	前には専門機関の助言や研修を受けている。	また専門機関での助言や研修を受けられるように改善していく。
	28	保育所や認定こども園、幼稚園等との交流や、障がいのない子どもと活動する機会がある	3	8	外出等で障害のない児童と交流	外出等(キッズプラザ)で障がいのない児童と同じ場所で活動をする機会がある。
	29	(自立支援)協議会子ども部会や地域の子ども・子育て会議等へ積極的に参加している	1	9		職員の入・退職が多い為、時間が取れていない。参加できるように改善していく。
	30	日頃から子どもの状況を保護者と伝え合い、子どもの発達の状況や課題について共通理解を持っている	8	4		一部の職員間では出来ているが、全体で共通理解が持てるよう改善していく。
	31	保護者の対応力の向上を図る観点から、保護者に対して家族支援プログラム(ペアレント・トレーニング等)の支援を行っている	3	7		行っていない。行う場合、誰が行うのか、全体で共通理解が持てるよう改善していく。
	32	運営規程、利用者負担等について丁寧な説明を行っている	9	2	契約時に行っている。	
	33	児童発達支援ガイドラインの「児童発達支援の提供すべき支援」のねらい及び支援内容と、これに基づき作成された「児童発達支援計画」を示しながら支援内容の説明を行い、保護者から児童発達支援計画の同意を得ている	7	1	6ヶ月毎に見直して、面談を行っている。	全体で共通理解が持てるよう勉強会等をして改善していく。

		チェック項目	はい	いいえ	工夫している点	課題や改善すべき点を踏まえた改善内容又は改善目標
保護者への説明責任等	34	定期的に、保護者からの子育ての悩み等に対する相談に適切に応じ、必要な助言と支援を行っている	9	4	送迎時や利用確認時にLINEや電話で話を聞いたりしている。	個別支援結果報告等を全員に周知出来ていなかったのを周知出来るよう改善していく。
	35	父母の会の活動を支援したり、保護者会等を開催する等により、保護者同士の連携を支援している	4	8		保護者の希望により、平成30年7月急遽保育園児と一部の低学年の保護者で開催。平成31年4月～5月頃保護者会を予定。
	36	子どもや保護者からの相談や申入れについて、対応の体制を整備するとともに、子どもや保護者に周知し、相談や申入れがあった場合に迅速かつ適切に対応している	9	2		一部対応出来ているが、これから体制を整備し全職員に結果を周知していく。
	37	定期的に会報等を発行し、活動概要や行事予定、連絡体制等の情報を子どもや保護者に対して発信している	5	5	1ヶ月毎に予定表を出して発信している	会報等を年1～2回出していけるように改善していく。
	38	個人情報の取扱いに十分注意している	13	0		
	39	障がいのある子どもや保護者との意思の疎通や情報伝達のための配慮をしている	12	1		
	40	事業所の行事に地域住民を招待する等地域に開かれた事業運営を図っている	2	9	隣のデイサービスと交流がある。	入・退職が多い為、最近隣のデイサービスの老人の方とあまり交流出来ていないので改善していく。
非常時等の対応	41	緊急時対応マニュアル、防犯マニュアル、感染症対応マニュアル等を策定し、職員や保護者に周知するとともに、発生を想定した訓練を実施している	1	10		緊急時の対応マニュアル等の策定し訓練等を実施するよう改善していく。
	42	非常災害の発生に備え、定期的に避難、救出その他必要な訓練を行っている	1	10	事業所がワンフロアで出入り口がわかりやすい。	職員の入・退職が多い為、機会を作れなかったが、訓練を出来る様に改善をする。
	43	事前に、服薬や予防接種、てんかん発作等のこどもの状況を確認している	8	4	契約時にお聞きしている。	児童の成長に合わせて再確認するよう改善していく。
	44	食物アレルギーのある子どもについて、医師の指示書に基づく対応がされている	1	8		食物アレルギーの児童を表にまとめ、いつでも見れるようにしておくよう改善し職員間の周知をしていく。
	45	ヒヤリハット事例集を作成して事業所内で共有している	12	1		
	46	虐待を防止するため、職員の研修機会を確保する等、適切な対応をしている	1	9		
	47	どのような場合にやむを得ず身体拘束を行うかについて、組織的に決定し、子どもや保護者に事前に十分に説明し了解を得た上で、児童発達支援計画に記載している	1	8	契約時に保護者に説明している。	児童発達支援計画に取り入れる様に改善していく。